

教科別授業改善推進プラン（体育科）

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・模範となる児童が発表することで、それを見た児童が、自分の動きに取り入れて、技術・技能の向上に役立っている児童が見られた。
- ・ペア、トリオ、グループなどの限定したメンバーで取り組むことで、お互いを励まし合ったり教え合ったりして向上しようとする意識が増えたように思う。
- ・タブレットを活用し客観的に自分の動きを確認するなどの活用が見られる。映像を担当に提出して、動きを見るということもやっている。

(2) 課題

- ・自分の体の動きを認識していない児童がいる。
- ・目指す体の動きに対して、どのように練習したらよいか考えられない。

2 重点課題

1 年	・自信をもち、いろいろな動きに取り組むこと。 ・体を巧みに動かして運動すること。 ・運動能力の個人差が大きいこと。 ・集団での遊びや運動を通して、社会性を身に付けること。
2 年	・体力に個人差が見られる。また、運動技能にも個人差が見られる。 ・集団行動において、時間やきまりを守ることができない児童がいること。 ・ゲームの勝敗を受け入れられない児童がいること。
3 年	・基礎体力・技能を身に付けること。 ・技のポイントを意識して運動に取り組むこと。 ・ルールを守って運動し、ゲームの勝敗を受け入れること。
4 年	・できない技にすすんで取り組み、練習しようとする意欲をもつことができるようにする。 ・児童によっては、マット運動などの技能面に3年生までに身に付けておくべき技が身に付いていない児童もいる。
5 年	・興味関心をもって体育の学習に取り組むこと。 ・自分の技やグループの作戦や問題解決のために協働的に学ぶこと。 ・運動経験や練習経験によって、運動技能の偏りがみられること。
6 年	・運動経験や練習経験によって、運動技能の偏りがみられること。 ・ボールを投げる能力を向上させること。 ・どの単元でも練習するときに粘り強く続けること。

3 授業改善策

1 年	・工夫した動きや良い動きを紹介する活動を通して、互いに認め合えるようにする。 ・遊びを通して、さまざまな動きを経験させる。 ・良い動きやこつを紹介し合い、意識して取り組めるようにする。 ・ゲーム遊びなど、小集団で遊ぶ経験や運動する経験を積ませる。
2 年	・主運動につながる基礎的、基本的な準備運動を取り入れ、技能を習得できるようにする。 ・ワークシートや掲示物を活用し、運動のポイントを理解した上で運動させる。また、友達と励まし合って活動できたことを振り返る時間を多く取る。 ・支援が必要な児童について、学年間で共通理解をし、組織的に対応できるようにする。
3 年	・授業の始めに補教運動を取り入れる。 ・休み時間にクラス遊び等を行い、鬼遊びやボール遊びに取り組むよう促す。 ・分かりやすい絵入りのカードや映像などの活用をし、イメージをもちやすくする。また、友達のよい動きをまねさせることで、いろいろな動きの経験をさせる。 ・ワークシートや掲示物を活用し、事前に見通しをもたせて行動させる。また、友達と励まし合って活動できたことを振り返る時間を多く取る。

4 年	・マット運動などは、スモールステップで場を設定し、達成感を味わう体験を積み重ね、自信をもって運動できるようにする。 ・技のポイントを提示したり、動画を見せたりして、身体の動かし方を想起する時間をとる。
5 年	・各領域の授業の中で、個人の目標を子供自身が設定する場をつくる。そして、それぞれが目標を意識した学習につなげる。 ・投げる運動のような運動経験の少ない運動については、1 時間あたりに取り組む時間を 7 ～ 8 割程度確保する。 ・タブレットや掲示物で運動のポイントを視覚的に分かりやすく例示し、的確に動きが捉えられるようにする。また、児童同士で動画を撮影し、助言をし合える環境作りをする。
6 年	・スモールステップを意識した場の設定を行う。 ・ボールを扱うときに、足の踏み込み、腕の振り、腰のひねり方などのフォームを確認する。 ・自分の姿を撮影して、客観的に見られるように体の動きを録画する。その動画を見て、自分の目標や振り返りに活用する。
全学年 共通	・動きのポイントが分かる資料や映像資料を提示し、視覚的に理解できるようにする。 ・運動時間の確保として、補助運動、主運動含めて 30 分以上確保する。 ・ルールやマナーを守り、友達を称賛している児童を振り返りや全体で共有する時間で紹介し、他の児童への見本となるようにする。 ・休み時間が校庭割り当ての日は、外で遊ばせる。